

地方から世界へ発信することの重要性

—日本海側最大級の国際見本市「富山県ものづくり総合見本市 2015」の役割



富山県商工会議所連合会 会長 高木 繁雄

今年（2015年）4月「富山県ものづくり総合見本市2015」が開催される。この総合見本市は環日本海地域を中心とするアジア地域との経済交流の拡大に大きく寄与し、毎回多数の県内外企業に加え、中国をはじめアジア諸国からも多くの出展があり、日本海側最大級の国際見本市となっている。

この国際見本市を地方都市である富山から世界に向けて発信することについての重要性について考えてみたい。

現在わが国の産業界において、共通の課題となっているのが、「少子高齢化による労働力人口の減少」、「国内市場の成熟化」、「海外市場の拡大への対応」である。リーマンショック後の景気停滞を脱し、徐々に回復傾向にある日本経済ではあるが、少子高齢化・労働力人口の減少を考えると、今後は国内市場が徐々に縮小していくことが懸念されている。

また、市場成熟化に伴い、大量生産・消費のスタイルから、付加価値を高め、多品種少量生産への対応なども必要となっている。特に成長が期待される分野（医療・介護、エネルギー・環境など）における市場を見据えた対応も求められる。

一方、中国・東南アジアにおいては、引き続き日本企業の海外進出が進んでいるが、従来のようなコストダウンを目的とするものに代わり、経済成長や企業集積に着目し、新たなマーケットの開拓を目指した現地生産・販売が増えている状況となっている。

すなわち、企業が永続的に成長をしていくためには、産業構造変化への的確な対応やグローバル化が不可欠といえる。これは、大企業・中堅企業だけでなく、県内の中小企業にも当てはまることであり、国内マーケットの縮小やグローバル化・ボーダーレス化への対応に迫られている。

このような環境下において、優位性を持っているのは、我が「富山県のものづくり産業」ではないだろうか。

ご承知のとおり、富山県は豊富な水と電力を背景とした日本海側屈指の産業集積地域を形成しており、機械、金属、電子デバイス、繊維、化学、医薬など様々な分野の基幹産業に加え、そこから派生する裾野産業（医薬であれば包装、容器など）が拡がり、多数のものづくり産業が立地している。

これらのものづくり産業は、医薬のOEM生産に代表されるBtoB（企業間取引）で発注企業のニーズをきめ細かく捉え、高品質・高生産性により信頼を得ることを得意とし、力を発揮している。また、依然現地調達率が低く、技術の発展途上であるASEAN地域等の日系企業・現地企業からのニーズも高い。しかし、これら富山県のものづくり産業、特に中小企業においては、世界への周知の機会も限られる状況にある。

そこで、富山県が世界へ発信する「国際見本市」が重要となってくる。富山県のものづくり産業が一堂に会し実際に商品を展示し、説明・商談を行うことで、国内外にその技術・製品、産業集積をアピールするにはこの「国際見本市」が絶好の機会になる。また、海外バイヤーとの商談を経験することで、海外進出を検討する中小企業も増えるのではないだろうか。

富山県では、1999年より継続して国際見本市を開催しており、今回が第8回となる。「継続は力なり」の言葉通り、商談・成約件数も上がっており、優良な中小企業など県内企業の認知度向上や海外ビジネスに大きく寄与していることはとても喜ばしいことである。

今年（2015年）3月開業の北陸新幹線もビジネス交流の活性化を後押しするはずであり、このタイミングを捉えての「富山県ものづくり総合見本市2015」の開催および成功に大いに期待したい。